

地域福祉座談会（記録）

民生委員・児童委員の活動現場から



さつま町保健福祉課

【実施日】 令和3年11月12日（金）

【会場】 さつま町役場 本庁舎 本館2階町長応接室

【時間】 始：午前10時30分 終：午後12時10分

～参加者（敬称略）～

◎さつま町民生委員児童委員協議会

会長 大園 良正（宮之城西部支部長）

副会長 今東 晴夫（薩摩支部長）

副会長 永田 まり（宮之城中央支部長）

宮之城東部支部長 上間 睦美

鶴田支部長 丸尾 省吾

主任児童委員代表 蓑牟田 律子（薩摩地区担当）

◎さつま町社会福祉協議会

会長 二階堂 清一

◎さつま町役場

保健福祉課 福祉係 主査 土器屋 剛（進行役）

●進行役

皆さん。おはようございます。

本日は大変お忙しい中、さつま町民生委員児童委員協議会より、大園良正会長、今東晴夫副会長、永田まり副会長、上間睦美宮之城東部支部長、丸尾省吾鶴田支部長、養牟田律子主任児童委員代表、そして、さつま町社会福祉協議会から二階堂清一会長にご参加いただきました。ありがとうございます。

それではただいまより、地域福祉座談会「民生委員・児童委員の活動現場から」を開会いたします。

本日の座談会ですが、来年度一斉改選がある「民生委員・児童委員」について、住民の皆様は役割・活動をもっと知ってもらいたいとの願いのもと企画いたしました。

意見交換に入る前に、簡単ですが、民生委員・児童委員の概要について触れておきたいと思います。

現在、テレビ・ラジオ等で“民生委員・児童委員”について広報されておりますが、ここで、民生委員制度の歴史を紐解いてみますと、大正6年(1917)に岡山県で創設された「済世顧問制度」が起源で、その後、戦争、戦後の復興期・高度経済成長期を経て、現在にいたっており、平成29年で制度創設100周年を迎えております。

また、今年の大河ドラマの主演“渋沢栄一(翁)”は現在の全国民生委員児童委員連合会の前身である“全日本方面委員連盟”の初代会長でわが国の福祉の向上・発展のために多大な貢献をされた、民生委員に大変関係の深い人物です。

民生委員は「児童委員」も兼ねることとされておりますが、その役割を見ますと、簡単に整理すると2つ。一つ目が地域住民の相談・支援活動。二つ目が役場や社協・関係機関との連携であろうと思います。

そして、民生委員に選ばれると地区協議会に所属した上で、それぞれの担当地域で活動をする事となります。

本町にも「さつま町民生委員児童委員協議会」があり、「宮之城中央」、「宮之城東部」、「宮之城西部」、「鶴田」、「薩摩」の5つの支部で構成され、皆さんを含めた現在93名の委員が活動されております。

それでは、座談会に入りますが、この後、私が順番に質問をいたしますので、皆様お一人ずつ発言をお願いいたします。

それではまず委員になる前の“民生委員のイメージ”について伺います。

1. 民生委員のイメージについて

●丸尾支部長

民生委員をさせられるまでは民生委員という存在は知っていましたが、内容は全然知りませんでした。やってみて分かったのですが、こんな大変なことをされていたのかと思ったところです。

●上間支部長

私も民生委員になる前は公民会の福祉関係の担当はしていたのですが、民生委員というのは大変な人、何でも分かっている人ということ以外、本当に何も知りませんでした。

こんなに大変とは思いませんでした。

●今東副会長

弱い人に寄り添う、また地域においては“都会の交番”的な存在と理解しておりました。

●大園会長

父が昭和30年代の後半から50年代まで民生委員をしていて、“民生委員というのは早く辞めてもらいたい”と当時思っていました。

その理由は、何か事が起こったり、役場から連絡があったり、その頃の民生委員は本当に様々なことをしなければならない、ということがありました。もう家のことは“ほったらかし”で関わらなければならない、というのがあって、私もまだ学生時代ということもあり、委員を辞めて“家のことをしてもらいたい”とっていました。

社会人になるまではそのイメージが強いです。

●永田副会長

高齢者などの“見守り”をしなければならない、それからもう一つ、まず“生活保護申請の手伝いをする”というイメージを持っていました。

●蓑牟田代表

学校行事それから保育園の行事、敬老会などの行事に参加する人と思っていました。

2. なぜ民生委員になったのか

3. なってみてどう感じたか

●蓑牟田代表

私は主任児童委員なので役場からの依頼でなりました。“大変だろうな”と思ったのですが、“私でもできることであれば”と思ってなりました。

なってみてどう感じたかということについては、“何をしてよいのか分からない”というのが一番困ったことでした。それで、まずは学校に行こうと考えました。

学校を一人で訪ねていくのはとても勇気がいりました。あとで考えてみると、前任者の方や支部長と一緒に行ってもらえば良かったと思いました。

●永田副会長

私の前任者の方から“3年”かけて言い含められました。“あなたがするんだよ”、“次はするんだよ”と。職場の先輩でもあったものですから“私がするんだ”と言われ続けて、私も“そうなのかなあ”と何の気なしに思っていました。

でも、いざなってみて、“難しいことが多いなあ”と思いました。

●大園会長

若い時は本当に“民生委員は何をしているのだろうか”という感じでした。

昔は本当に人の生活のために“自分を犠牲”にして、支援しなければならないのが民生委員だった、というのが記憶にあります。

だから、“そういうことはしたくない”という考えが若い頃はありましたが、今では様々な人々と関わっていく中で、“人と接する”、人を導いていくということは楽しいことばかりではないですが、民生委員活動は“やりがい”があると思っています。

これまで自分の仕事も“地域のおかげ”で今までがあったことを考えて、何か“恩返しをしないといけない”との想いでなったのが“民生委員”でした。

●今東副会長

民生委員になったのは、“騙されて”、もうはっきり言って“名前”を貸してくれと言われてなりました。その後、書類が送ってくるようになって困りました。

しかし民生委員になって14年になりますが、いろんな勉強をさせていただきました。

●上間支部長

私の前任の方が途中で病気になられて、治療に専念されるということだったので、“えっ私に”という感じで、“受けていいのかな、こんな大変な仕事”、私にできるのかなと思いつつも、ついつい受けてしまいました。

去年、義理の母が亡くなりました。介護をしながら8年ほどやらせていただきましたが、介護をしながら、高齢者の方そして家族の方と接して、自分の持っている知識も結構役に立ちますので、これも“まあいいのか”と思いつつやっています。

●丸尾支部長

地域で民生委員の改選があるということも知らずに、“なり手がいない”ということで相談があり、1回・2回は断りましたが、“民生委員は何もないから、名前だけでいいから”と言われ、引き受けました。

何もないと言われましたが、色々ありました。事あるごとに役場や社協に相談に行きました。私の担当地区も高齢化率が高く、付き添いで救急車に同乗するなど、様々なことがあり、とにかく大変でした。

4. 民生委員をしていて大変だったこと・きつかったこと

●丸尾支部長

役場や社協の方々と“顔見知り”になれたことは良かったのですが、何も知識がない男に“あなたが民生委員だから”とあって相談にこられても、相談内容に対し、的確に答えられないことが多々ありました。

だから、勉強をしないといけないのですが、ほかの民生委員さん方もこんな心配をされているのかと思うことが多々ありました。

今期の新人委員からも“どうすればいいか”と聞かれますが、まず、委員本人の考えが重要で、相談者に納得してもらえるよう取り組む、そして、“役場や社協に相談に行くように”、としか言えないので、まあそういうことも含めて“きつい”ということなのです。

●今東副会長

民生委員活動をしていると、変な“プライド”を持った人が結構いて、支援が必要と思われる方がいても変な“プライド”のおかげで話が進まないときが結構あります。

さてどうしようかと思いつ、周りとは相談をしながら対応しなければならなかったことが一番心配でした。

話を引き出そうとして言葉を掛けていくのですが、なかなか理解をしてもらえなかったこと、“お年寄りが何を考えているのか”というのを知ることは非常に大変でした。

だから、お年寄りの所に行く時には、いろんな情報を持った上で訪問します。

“何か困ったことはないですか”とあって話をしたりして、何かポツツと言われた時に“あっこれだ!!”と感じられるまでは大変でした。

●大園会長

私は現職と重なった時期が5年ほどあるので、退職後の民生委員活動が大変に感じたことはありません。そのかわり、現職中から“言葉遣い”というのは非常に気を遣いました。

活動の中では、入院の“保証人”になったり、独居者が亡くなった時、遺体を引き取りに行ったこともありました。民生委員活動は、かねて何もしなければそんなに特別な仕事とは思いませんが、何か少しでも“楽しい・良かった”と思えることが1つでもあれば、続けられる仕事ではないかと思えます。

●永田副会長

民生委員になった14年前は、生活に困っている人が何人もいらして、毎日走り回っていた思い出があります。今日の座談会で“何を話そうか”と、そのころの日記を見てみたら、私は“壮絶な戦い”をしていました。

“本当に世の中にこのような方たちがいるのか”というような状況で生活をさせていらっしやいました。家に上がらせてもらいまして、その方はこたつで寝ておられたのですが、畳が凹んで、ジッタジッタなっていて、そこに寝ていらっしやいました。

その人には子供もいなくて、兄弟が4人、県外に住んでいると言って。それで、その人たちに生活状況を連絡し、支援をお願いしたら、私に最初言われたことが、“てめー民生委員のくせに、給料たくさん貰ってるだろうが!!”とか言われて、“もう、私はどうすればいいんだ”と思って、その頃の福祉系の職員に相談して、何か月もかかってやっと解決ができました。

その人はその後入院することになり、何か月か入院した後は、施設に入所されましたが、施設に面会に行ってみたら、もう綺麗にされていて、以前と全然感じが違いました。

そして、県外にいらっしやる兄弟にも最後には分かってもらえて、私の家に兄弟4人いらして“本当にお世話になりました”とお礼を言われました。

最初の電話で“おめー”と言われて、何で私の家に来るのだろうかと思って怖かったですが、“分かってもらえたんだなあ”とすごくホッとして、うれしくて“ああ良かった”と思いました。

このように民生委員になった最初の頃に強烈なことがあり、他にも何人も壮絶なことがあって、“私こんなことできるのかな”と思いました。

●蓑牟田代表

私はまず“何をしたいのか分からない”ということが大変でした。今まで仕事柄マニュアルというものがあって、その下で働いていたということがあるものですから、“何をしたいのか”、子供たちのための“主任児童委員”制度ができた訳ですので、もちろん“子供たち”というものはあるのですが“どんな風にして見守ったらいいいのか”、自分の地域は分かりますよね、立哨をしたりとか、声をかけたりできるんだけど。“他の地域に行つてどうすればいいんだろう”とか、そういうことが一番大変でした。

～ここで上野町長が入室～

- ・ 県議会の視察があるため、あいさつ後、退室される。

5. 民生委員をされていて良かったこと・うれしかったこと

●蓑牟田代表

民生委員をされていて良かったことは、“ころばん体操”に出会えたことです。

最初、本当に何をしてよいのか分からなくて、“もう何でもやろう”と“福祉的なものは何でもやろう”と思いました。

初めての総会で、役場の方が“ころばん体操”について説明されました。“ころばん体操って何”って隣の人に聞いたら、“こういう体操があるんですよ”ということで、その頃中津川にはまだなかったものですから、“私が準備します”という感じで“ころばん体操”を引き受けました。

それから5年間続けているところです。自分も健康になります。

●永田副会長

まず、公民会の皆さんをよく知るようになりました。

毎月、月に何回か訪問をしたりすると、“おおきになー”とか“ありがとうなー”とかおっしゃられて、そういう言葉がすごく嬉しいです。

そして先程も言ったように、心配事が解決した時に“達成感”というか、本当に“良かったなあ”と思います。

●大園会長

いろんな事の成果・結果が出た時はうれしく思います。

昔は一人暮らしの家もどんどん開けて入っていった時代でしたが、今はそれができない。“戸の開け方”にも気を遣う世の中ですので、何か“昔に戻りたいなあ”という気もありますが、いろんな相談を受けて結果が出た時が、“うれしさ”ではないけれども“良かったねー”という感じはあります。

そこまでいけば“一つの仕事は終わったんじゃないかなあ”と感じながら、一つが済めばまた出てくるのがこの仕事ですので、それは仕方のない事だと思っています。

●今東副会長

先も言ったように、民生委員を14年やっているわけですが、訪問に回って、“長く来なかったね、上がって茶でも飲んで戻れ”と言われることが一番うれしいです。

そして、“あなたは話をよく聞いてくれるからね”という風な事も言われます。

だから、そういう時は非常に“うれしい”です。

ただし、“馴れ合い”になると言葉が乱れたりしますので、そこは気を付けながら、“言葉は文化”と言われるから、しっかりした“言葉遣い”に気を付けながら活動しているところです。

自分の話よりも相手の話を“聴く”ということを、とにかく“あなたが来れば話を聞いてもらえるから良い”と言われるくらい、話を良く聴かなければいけないと思います。

●上間支部長

私の担当地域には、ハザードマップで水害があったときの“浸水地域”というのが何軒もあります。今年の7月に大雨が降った時、見守っている高齢者夫婦がいるのですが、朝起きたら報道が凄かったですよね、避難してくださいという、それで“しまった”と思って、おにぎりを握って朝ごはんを持って行きました。

お宅に着いてみると近所の方たちがその夫婦を車に乗せて、今から薩摩中央高校に避難します、と言ってくださったんですね。

それで“良かったー”と、こうして近所の方も来てくれてるんだと思った時は、民生委員になって初めて“うれしいなあ”と思いました。

●丸尾支部長

私の場合、自分が良かったという事ではありません。

子供がよそに居て、民生委員が支援をしなければならぬ大変な生活環境の高齢者がいらっしゃいました。その方にはいろいろ手続の手伝いをして施設に入ってもらいました。

養護老人ホームに入ってもらって、今までの生活、汚れていたり、ゴミ屋敷だったりではなく、個室でホテル並みです。その人の顔を見た時に“良かったなあ”と思いました。

また最近、自分が病気がちで“母の面倒を見れない”という内容の相談がありました。お母さんは施設入所を希望しておられたことから、養護老人ホームに入所申請をしていたのですが、予定より入所時期が早くなり、自宅を訪問してみたところ“お世話になったね”とお礼を言われたことがうれしかったことです。

●進行役

次に、民生委員は児童委員も兼ねておりますが、特に児童分野に特化した活動を担う“主任児童委員”が宮之城、鶴田、薩摩に1名ずつ、計3名いらっしゃいます。

本町も少子化に伴い、小学校・中学校の統廃合が進んでおります。地区間でも子どもの多い・少ないがあります。

そこで、児童委員としての活動について、まずは蓑牟田主任児童委員代表にご意見を伺った後、皆さんのご意見を伺いたいと思います。

6. 児童委員としての活動について

●蓑牟田代表

手探りのところから始めましたので、子供に限らず、できることからしようと思って、まず“ころばん体操”を中津川に導入しました。

立哨をして子供を見守ることについては、中津川区を主に実施しています。

できるだけ、他の地区にも立つように“交通安全週間”や“あいさつこだま運動”の時には立哨するようにしています。

また今年度、“子ども食堂”を立ち上げました。明日がオープンです。その地域に応じた取組をという県の指導もありましたので、子どもとお年寄りの食堂“なかつこカフェ”という名前にしました。そして、子ども食堂のオープン前から県のアンケートがあって、その中に“子どもの学習支援と連携していますか”とあり、本当はこんなふうに進めるべきなのかなあと思ったところです。

主任児童委員は“子供を見守る立場”として始まったとありますが、県の研修会にも参加させていただいて、“どんな活動をするべきなのか”、本当にそれぞれで“自分でできることを探すしかない”ということを経験して理解しました。

次に引き継ぐ人にアドバイスできたら良いかなと思っています。

●永田副会長

私は児童委員としては“立哨”をしています。その中で“今日は何があるの”とか“水筒は持ってきた”とか声かけをしています。

そして最近、自宅の周りに、小学1年生が5人いるんです。みんな元気で、いつも私の自宅の後ろから“〇〇君行くよー”ってですね、大きな声で、7時ちょっと過ぎに聞こえてきます。いつも“いいなあ”、こういうのがずっと続けばいいなあと思うところです。

●今東副会長

昔はそうだったわけ、みんな。ちょっと高いところから“おいっ行くぞ”と言えば、みんな出て来たわけ。それと一緒に、そういう関係ができればいいんだけど。

私の地域は子供がもう1人しかおらんから。

●大園会長

子どもが増えている地域、“一極集中”的な状況もある。私の地域は、もう子供がいないわけ。いても5・6人だから。

それと地域行事が少なくなっていく中で、学校との関係も薄くなってきているように感じる。学校が少なくなっていくのは仕方がないことと思っているけれども、やっぱり学校は“地域のシンボル”、子どもは“地域の宝”なので、学校と親近感を持った、いろんな日常生活を取り戻していかなといかんなあと日々感じるところです。

●進行役

ありがとうございます。この児童委員の活動については、学校との連携という点もポイントになるかと思えます。学校からのアプローチを待つというのがありますが、こちらからも学校側にアピールをしていかなければならないと感じるところもあります。

7. 民生委員制度はこれからも必要と思うか

8. “担い手不足”についてどう思うか。解消するために何が必要か

●蓑牟田代表

これからも高齢化とか過疎化とかなってくると、お年寄りにとっては地域の民生委員はとても大切だと思います。

ただ、民生委員は“なんでも屋”にならないように、“やるべき事”、“やるべき限度”を明確にした手引きみたいなものがあると仕事をしやすいのかなと思います。

●永田副会長

民生委員制度はこれからも必要か、ということに対しては、単純に“必要”と思います。

“担い手不足”という問題に対しては、最近は60歳を過ぎても仕事に行かれる方が多くて、簡単に頼めない状況があります。

だから、いつも70代パワーと言っていますが、70代でも元気な人が多いので、年齢制限をなくして担い手を確保する方法がいいかなと思います。

●大園会長

地域の中で一番身近な相談相手として支援ができる立場にあるのが民生委員ですので、民生委員制度は今後も必要な制度であると思います。

そして“担い手不足”に関しては、定年が延びた関係で、今まで担ってくださっていた年代の人たちが“仕事をしているからできない”という状況に繋がっているのではないかと思います。そこの所を考えれば、今、言われたように、70歳でも若いほうと思うので、一応75歳という年齢制限はありますが、そこは是々非々で、できる人はやっていただく、そういうふうに関消をしていくほかはないと思います。

それで、特にさつま町の民児協は平均年齢が68歳ですので、まだあと2期はできる年齢ですので、そういうところなどを理解してもらいながら、75歳というのは決められた年齢としてありますが、柔軟な対応をしていかないと民生委員がいなくなる地域というのも出てくると思います。

●今東副会長

“絶対に”とは言いませんが、“必要である”と思います。お年寄りが多くなってくると“誰に言えばいいのだろうか”、“どこに頼めばいいのだろうか”というようなことも結構あります。そのような時に、地域の民生委員を“都会の交番的な役割”として考えれば“必要”ということです。

それから、“担い手不足”という部分については、75歳を過ぎればちょっと動きがねえと思うようになりましたので、どういう形がいいのか、手の空いてる人に回っていただいて話を聞いてもらうとか、そういうことも必要ではないかと思います。

●上間支部長

私も必要かと言われたら、“必要である”と思います。“担い手不足”については、やっぱり年齢的なものもありますが、仕事をしていても民生委員活動ができるんだ、ということをもう少し明確にしてあげればいいのかなどと思いました。

●丸尾支部長

民生委員制度は、どちらかといったら“あったほうがいい”というのが私の思いです。

“担い手不足”については、若い方でも仕事をしながら民生委員をやっている方もいらっしゃいます。

70歳でも仕事に行かれる方もいらっしゃいます。そのため“民生委員は仕事があるのでできません”と言われる方もいらっしゃいますが、要は“やる気があるかないか”の問題であると思います。100人いたら100人が“私がやります”とは言われなないと思いますが、これだけ高齢社会になってきたら民生委員も“同世代の方のほうが話しやすい”ことが多々あるのではないかと思います。

私も今67歳ですが、定年の年齢が今後も伸びていくことが予想される中で、地域には75歳になってもバリバリ動けられる方もたくさんいらっしゃるのではないかと思いますので、若い方、私より先輩の方々も含めた広範囲で“担い手確保”を考えて行く必要があると思います。

●進行役

ありがとうございます。福祉の世界でよく“我が事”、“丸ごと”と言いますが、民生委員をやると、いろいろ“きつい・大変”なこともあるかもしれませんが、自分にとって決して“マイナス”ではなくて、いずれ巡り巡って“自分のためになる”、というふうに思っただけだと一番いいのかなと思います。

この間受講した民生委員関連の研修会の中で、退職後、皆さんそれぞれ年を重ねていく過程がありますが、元気な人、痴呆にならない、認知症にならない人に共通しているのは、“何らか社会との接点がある”、“社会貢献”が重要であるとありました。

“民生委員”、いろいろあります。“地域貢献”、“社会貢献”という側面からも、ひとつ前向きに考えてみようかと思っただけだとありがたく感じます。

定年制については、一応75歳という線が引かれておりますが、県内では80歳を過ぎても現役の委員さんいらっしゃいます。ですから、体力があって、健康であって、熱意があれば、どんどん“気力体力が続く限り”やっていただけるといいのではないかと思います。

それでは次に進みます。日本は1990年代初頭のバブル経済の崩壊以降、平成の30年間、長らく“低成長”、“デフレ不況”で苦しんでおり、時代が令和に改まっても、あまりその状況は変わらないように思われますが、これまでの間、少子・高齢化や人口減少などの社会問題のほか、個人の価値観の多様化、核家族化など家族観の変化は、持続可能な地域社会を形成していく上で大きな影響を与えてきたといえるのではないかと思います。

そして今日では、経済的理由ばかりではなく、病気、家族問題など様々な理由から陥る“生活困窮”が大きな問題となっており、行政をはじめとする関係機関の連携による相談・支援体制づくりが重要とされております。

そういった中において、地域住民に寄り添う“民生委員・児童委員”の存在意義はますます高まっているのではないかと感じます。

ここで、地域福祉推進の中核を担うさつま町社会福祉協議会の二階堂会長に“本町の地域福祉の現状と今後の展望・可能性”について、ご意見をいただきたいと思っております。

本町の地域福祉の現状と今後の展望・可能性

●町社協 二階堂会長

今日はお招きいただきまして本当にありがとうございます。いい意見を聞かせていただきました。もう20何年前ですか、私も役場に勤めていた時、民生委員を担当していたことがあります。

当時は介護保険がなくて、ヘルパーさんの派遣にしても、民生委員さんの意見書が別に必要でしたし、生活保護申請も民生委員さんの意見書が必要でした。

福祉給食がないときもありましたので、その時にはおそらく民生委員さん方が晩のおかずを作って持って行かれていた家庭もあるのではないかと思います。福祉制度が充実していませんでした。逆に福祉制度が充実していけば、本人がまっすぐ社協に申請したり、役場に申請したりできます。申請情報は“個人情報”として取り扱うため、民生委員さん方はなかなか実態把握ができないと、そういったマイナス面もあるような気がします。

そういった中で、地域福祉計画・地域福祉活動計画を行政と一緒に作りましたが、“地域福祉”という言葉は漠然と分かります。でも具体的にどうということね、といたら、それはちょっと待ってよ、ということになると思うのです。

地域福祉を理解するためには、私はその地域が“歩んできた歴史”をまず“尊重”すると、そしてそれから先、その地域が歩いていく道をまた“尊重”して、側面から手助けをしていくのが“地域福祉”ではないかな、というふうに考えております。

形にはまって、カップラーメンみたいにどこの店で買っても同じ味がする“地域福祉”はないと考えております。特にさつま町の場合は“農業を中心にした地域福祉”を、大部分の地域で持っているような気がします。種をまいて、苗床を作って、田植えをして、刈取をして、脱穀まで行くと。そして、その間は金銭のやり取りはしないで、地域で助け合って米を作っていたわけなので、これはもう全く“結い”のところで一年分の米を作るといって、一番いい“地域福祉”が実践されていたのではないかと思います。

また“村八分”という言葉があります。村には十通りの掟、“付き合い方”があるとのことで、“村八分”とは、十のうち八つはもう付き合いをしないと、あとの残った二つはどんなことがあっても“付き合い”をする、“村八分の人間であってもやるんですよ”というものです。

その二つというのは“その家が火事になった”時と“葬式があった”時、これはいくら村八分にかかった人間でも加勢をしていって、一緒にやるというのが“村八分”なんだそうです。ですから、“村八分”というのがあるということは、やっぱり地域福祉がずっと歴史の間で根付いていたような気がします。

これだけ高齢化が進んでいけば、20%台から70%台までありますので、そういったことだけではこれからの“地域づくり”と申しますか、地域の“維持”は難しいのかなという気がしますので、ここで1回、“再構築”をしましょうか、というのが“地域福祉”でもあるのかなという気がいたしております。うちの公民会が福祉が遅れているとか、うちは進んでいるよ、とかいうことではなくて、いろんな“地域福祉”がある、それを“尊重”していくことが一番いいのではないかと考えております。

ですから、地域で高齢化率50%を超えていけば、行政や社協が少し下駄を履かしてあげないと、“全部地域でやってください”というのは、それは20%・30%台のところはできますが、50%、60%、70%となれば、社協が生活支援をするなど、地域に力が無いところは直接入っていくということも必要ではないかという気がします。

前も話したかもしれませんが、地域福祉活動計画を作る時にアンケート調査をしました。その時に、これから先、さつま町に住むには“何が一番不便”になると思いますか、という質問をしたのですが、まず“買い物”です。そしてその次が“病院への通院”、そして“田畑の管理”、“災害対策”、“墓石の管理”、というふうに続いていきます。

ですから、この町の将来と申しますか、課題はもう明白になっているわけです。“ここが不足しますよ”というのを町民の方々が言っていられちゃるわけですから、この所にまっすぐ手が届くように、直接ところに届くような福祉のサービス展開が必要ではないかなということを感じています。

今日は本当にいい意見を聞かせていただきましたので、地域に住む者同士、励まし合って頑張っていけたらと考えております。

今日は本当にありがとうございました。

●進行役

最後の質問に入りたいと思いますが、民生委員・児童委員に求められる資質は何ですか、ちょっと難しいと思いますが直感で結構です。一言でも結構ですのでお願いします。

9. 民生委員・児童委員に求められる資質は何か

●丸尾支部長

なってみて思うのですが、民生委員として、ただ役場・社協さんたちに繋ぐだけじゃなくて、ある程度の勉強も必要になってくるのかなと思います。

●上間支部長

資質というか、人の話を聞いていけば、自分の経験も言いたくなりますが、民生委員はとにかく“話を聴いてあげる”こと、それが一番大事であると感じています。

●今東副会長

とにかく“聴くところ”。人間は“ここで始まって、ここで終わる”と言われるくらいですから、人の“ところ”をしっかりと聴いて、そして対応していくということが必要であります。

●大園会長

特にないとは思いますが、住民にとって福祉といえば難しいイメージがあるかもしれませんが、まず、福祉の仕事に関してある程度の理解と熱意がある人、地域の実情に詳しい、よく知っている人、というのが基本的な資質になるのではないかと思います。

そして、一番は先ほどから話があるように、相手の相談相手として、話をよく聴いてくれる人であれば、民生委員・児童委員は“誰でもできる”と思います。

●永田副会長

私は“誠実”と“同調”。以上です。

●蓑牟田代表

私はやっぱり“真面目に取り組む”ことが一番かなと思います。そして、ある程度仕事も一段落している人のほうがいいのかなと思います。

それと、地域活動に関心を持っていらっしゃる人がいいのではないかと思います。

●進行役

ありがとうございます。

以上で質問がすべて終わりました。委員の皆様、二階堂会長、ありがとうございました。

民生委員・児童委員は1期3年が任期であります。冒頭でも触れましたが、現在の委員の皆さんの任期が令和4年11月30日までとなっております。そのため来年度は全国で民生委員・児童委員の一斉改選が行われますが、最後に大園会長に一言お願いします。

●大園会長

今、民生委員・児童委員の方々におかれては、“新型コロナウイルス感染症”で制約を受ける中で、地域における“福祉増進”のために活動を行っていただいております。本当にご苦労されていると思います。

そのような状況の中で、今期もう3年目を迎えます。来年の11月にはもう改選期を迎えるわけで、“本当に何をしたらろうか”というふうを感じる時間の過ぎ方です。

それで、今期は約半数の方が新任ということで、コロナ前に普通に行えていた日常の委員活動が“難しかった”のではないかと思います。

そういう中で改選期を迎えるということは、非常に不安といいますか、新任の方は様々な民生委員活動の場を通じて、1年間という流れの中で経験をしながら、理解を深めていただいき、民生委員活動に対する“愛着心”というのを持っていたいただいていたわけですが、それが“難しかった”のではないかと感じています。

そして、民生委員は“地域”から推薦されますが、行政、区、公民会で連携を取っていきながら、地域の中で民生委員活動を理解してくださる人たちを増やしていき、地域の中で“裾野”を広げていかないと、将来には繋がらないと思います。

まずは、来年の改選期を何とか乗り切って、あとは将来に誰もが“民生委員をしてみようか”というような気持ちを持っていただく“環境づくり”が必要ではないかと思いますので、私が一番皆さん方をお願いしたいのは、一斉改選を迎える来年度は、できれば今期の方に留任していただいて、それで次に向けて“環境づくり”をやっていただく、そういう形が取れば、非常にありがたいと思うところです。

“地域”が基本です。地域の方たちにもその現状を理解していただかないと先に進めないので、各民生委員の方々には地域を巻き込んだ“啓発活動”も今から必要なのではないかと思います。

まとめではないですが、お願いを申し上げて終わりたいと思います。

●進行役

大園会長、ありがとうございました。

民生委員・児童委員に一人でも多くの住民の方が興味・関心を持っていただけるよう祈念して、本日の座談会を終わらせていただきたいと思います。

それでは、以上をもちまして、地域福祉座談会「民生委員・児童委員の活動現場から」を閉会いたします。

皆さん、本日はありがとうございました。